

FUKUI SLOVAKIA OPERA 2016

コンサートオペラ について

よく知られているアリアを中心にストーリーを再構成したオペラのダイジェスト版です。最小限の小道具と、表現力豊かなピアノの伴奏により、ソリストたちの歌を最大限に堪能することができます。私たちはこの形式をコンサートオペラと呼んでいます。

PROGRAM

第一部 コン서트オペラ「リゴレット」

(ジュゼッペ・ヴェルディ作曲 オペラ「リゴレット」ダイジェスト版)

■キャスト

リゴレット：マントヴァ公爵に仕える道化師 マルティン・ポポヴィッチュ（バリトン）
ジルダ：リゴレットの愛娘 マリアナ・ホヘロヴァー（ソプラノ）
マントヴァ公爵：好色で悪事を働く公爵 ドウシャン・シモ（テノール）

■あらすじ

場面は 16 世紀のイタリア。毒舌で廷臣達に嫌われているリゴレットは、好色なマントヴァ公爵に仕える道化師です。ある晩、舞踏会で公爵がチェプラーノ伯爵夫人を口説き、その場にいた夫はリゴレットに笑い者にされてしまいます。そこへかつて公爵に娘を弄ばれたモンテローネ伯爵が現れ、彼の卑劣な行為を激しく糾弾します。リゴレットが哀れな父親をものしると、彼から呪いの言葉を返されます。リゴレットはやがてその呪いを恐れるようになります。実は彼には世間から隠してきた愛娘、ジルダがいたのです。廷臣達たちは美しい少女をマントヴァ公爵に引き合わせることで、リゴレットへの復讐を企みます。マントヴァ公爵は学生に変装して彼女に近づき、その心を奪います。リゴレットには隣家の伯爵婦人の誘拐だと偽り、見張りをさせてジルダを連れ去ります。ジルダは公爵に弄ばれても彼を愛し続けます。リゴレットが公爵の悪行を分からせようと、ジルダを酒場に連れて行きます。そこで彼女は、公爵が下品な歌をうたい、殺し屋スパラフチーレの妹、マッダレーナを口説いているところを目の当たりにしますが、彼を愛することを止めません。復讐のため、リゴレットがスパラフチーレに公爵の殺害を依頼するのをジルダが聞いてしまいます。一方、公爵に心を奪われたマッダレーナは、兄に公爵の替え玉を使うよう懇願します。それを知ったジルダは自ら公爵の身代わりになり、スパラフチーレに刺されます。リゴレットは約束通り袋詰めになった公爵の死体を渡され、川に捨てようとしたところ、死んだはずの公爵の下品な歌が聞こえてきます。驚いて袋をあけると、中には虫の息の愛娘、ジルダの姿。リゴレットの腕の中で息を引き取るジルダの死で悲劇は幕を閉じます。

第二部 オペラ、オペレッタなどの曲

- | | | |
|--|-------|------------|
| 1. アレコのアリア (S.A. ラフマニノフ「アレコ」) | | S. スヴィトック |
| 2. ズデス・ハラショー (S.A. ラフマニノフ) | | M. ポピック |
| 3. 春の水 (S.A. ラフマニノフ) | | V. ミハルコヴァー |
| 4. ジェニュー・リ・ツァリーチュ (P.I. チャイコフスキー) | | S. スヴィトック |
| 5. リンダのアリア (G. ドニゼッティ「シャモニーのリンダ」) | | M. ポピック |
| 6. アドリアーナのアリア (F. チレア「アドリアーナ・ルクヴルール」) | | V. ミハルコヴァー |
| 7. ロジーナのアリア (G. ロッシーニ「セビリアの理髪師」) | | M. ポピック |
| 8. グラナダ (A. ララ) | | S. スヴィトック |
| 9. シルヴァの歌 (E. カールマン「チャールダーシュの女王」) | | V. ミハルコヴァー |
| 10. アデーレの歌 (J. シュトラウス「コウモリ」) | | M. ポピック |
| 11. ハイマーシ・ペーテルとパール (E. カールマン「チャールダーシュの女王」) | | ソリスト全員 |